

テーマ別シンポジウム | 生涯スポーツ研究部会 | 【課題A】 共生社会の実現に向けた生涯スポーツ政策と協働システムをいかに構築するか

生涯スポーツ研究部会【課題A】テーマ別シンポジウム／協働システムの現状と課題から今後を考える ― “支えるスポーツ” が果たす役割―

コーディネーター：後藤 光将（明治大学）

2022年8月31日(水) 14:00 ～ 15:50 第6会場 (2号館1階11教室)

本テーマ研究部会では、昨年度のテーマ別シンポジウムから、共生社会と生涯スポーツが共存するためにはスポーツのパラダイムチェンジが必要であることが共有された。このパラダイムチェンジにはスポーツの見方を変える、広げる必要があり、「する」だけでなく「みる」、「支える」という視点からも共生社会と協働システムを考えることが重要である。そこで今回は、「スポーツボランティア」という存在に着目する。スポーツボランティアは、「支えるスポーツ」の象徴的な存在であり、共生社会において生涯スポーツがどのように位置づけるのかという文脈において、スポーツボランティアが果たす機能は、共同システムの中核を担うと考えている。そこでスポーツボランティアの役割や現状、課題について協議することとした。

このような趣旨を踏まえ、「スポーツボランティアの現場について」笹川スポーツ財団の澁谷茂樹氏からお話をいただく。次に、北陸学院大学の田引俊和氏から「スペシャルオリンピックスのスポーツボランティアを通して考えるその役割と今後の課題」についてお話をいただく。最後に、文教大学の二宮雅也氏から、「共生社会とスポーツボランティア」と題しお話をいただく。

発表を踏まえ、共生社会実現に向けた、協働システム構築に、スポーツボランティアを例とした「支えるスポーツ」がどのような役割を果たす、または担うべきであるのかについて意見交換し、今後の政策や法律上、具体的にどのような課題があるのかについて討議を深めてゆく。

[生涯スポーツ-SA-1]スポーツボランティアの現状

*澁谷 茂樹¹ (1. 笹川スポーツ財団)

<演者略歴>

笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 シニア政策ディレクター

日本スポーツボランティアネットワーク 事務局長

スポーツを「する」「みる」活動を成立させる上で不可欠なスポーツボランティアは、地域におけるスポーツの指導や大小さまざまな規模の大会運営、スポーツ活動の基盤となる競技団体、地域のクラブ・チームの運営など、その活動内容は多岐にわたる。しかしながら、「スポーツボランティア」という言葉に多くの人々がもつイメージは、国際的・全国的スポーツイベントやプロスポーツ興行で一般公募されるイベントボランティアに限定されている。近年、ある程度の規模のスポーツイベントでは、一般公募によるボランティアが大会の運営に重要な役割を果たすようになってきた。また、そこで活動するボランティアの多くが、活動そのものや活動を通じて得られる人とのつながりに強いモチベーションを抱き、多くのイベントに積極的に参加し、活動の質を高める好循環を生み出している。本発表では、わが国のスポーツボランティアを概観するとともに、イベントボランティアの好事例の紹介・分析を通じて、広くスポーツをささえる現場が抱える課題解決に向けた議論を喚起したい。